

○ 委員長報告

9月定例本会議で報告された観光スポーツ文教警察委員長報告は、以下のとおりです。

令和5年9月定例会

観光スポーツ文教警察委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、ソウル線のデイリー化と釜山線の新規就航についてであります。

このことについて一部の委員から、搭乗率の見込みや、増便、新規就航が県内にもたらす経済効果はどうか。また、アウトバウンド利用の促進に向けた取組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、ソウル線は、当初少なかった日本人利用者が増加傾向にあり、デイリー化後も8割の搭乗率を維持できるように取り組む。また、釜山線についても、ソウル線と同様に8割を目標としている。

さらに、経済効果は、直接効果、間接効果、便益効果を合計すると、ソウル線が年間約32億7千万円、釜山線が年間約15億7千万円となっている。

今後は、県内外からのアウトバウンド利用の促進に向け、県外での釜山線PRのほか、大学等の教育機関と連携した海外旅行機運の醸成や修学旅行での利用促進に取り組むなど、若年層の利用拡大に注力し、需要の底上げを図りたい旨の答弁がありました。

第2点は、部活動の地域移行についてであります。

このことについて一部の委員から、県中学校総合体育大会へのクラブチームの参加状況はどうか。また、地域移行の課題と今後の取組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今年度は、11競技で地域クラブの参加が実現し、54の地域クラブから72人が出場した。地域移行は、少子化に伴う部員減少等により部活動が衰退する前に、地域で支える体制に移行することで、子供たちのスポーツ・文化活動の機会確保につながるが、一方で、指導者の確保や受け皿づくりなどの課題がある。

昨年度に国事業を活用し実施した松山市のモデル事業において指導者確保

等の好事例が生まれたほか、今年度は4市町が実践研究に取り組んでおり、引き続き、国事業を活用しながら、市町による部活動の地域移行が円滑に進むよう、県も一緒になって考え、生徒が安心して部活動を楽しめる環境整備を進めたい旨の答弁がありました。

第3点は、松山東警察署庁舎等の整備についてであります。

このことについて一部の委員から、周辺施設の整備計画はどうか。また、新庁舎が完成し、市民の利便性がどのように改善されたのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今回の整備は、平成30年度から令和6年度までの7か年計画で各種工事を進めているところで、本年2月に新庁舎で業務を開始し、今後は、旧庁舎の解体工事、その跡地に駐車場及び車庫棟を整備した後、署長等宿舎の新築工事を行うこととしており、計画どおり完了するよう適切な工事監理等に努めたい。

駐車場及び車庫棟は、建替前の1.3倍に当たる約120台が駐車可能になり、来署者の利便性が向上する。

また、災害や犯罪等に対する警察活動の更なる強化が図られ、これまで以上に県民の安全安心の確保に資する効果的な諸活動を推進できると考えている旨の答弁がありました。

このほか、

- ・海外とのスポーツや文化交流に対する支援
- ・観光振興基本計画に基づき講じた施策の実施状況
- ・学校施設の災害復旧
- ・不登校児童生徒への支援の充実
- ・県警における要人警護の在り方
- ・横断歩道停止率の現状

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。